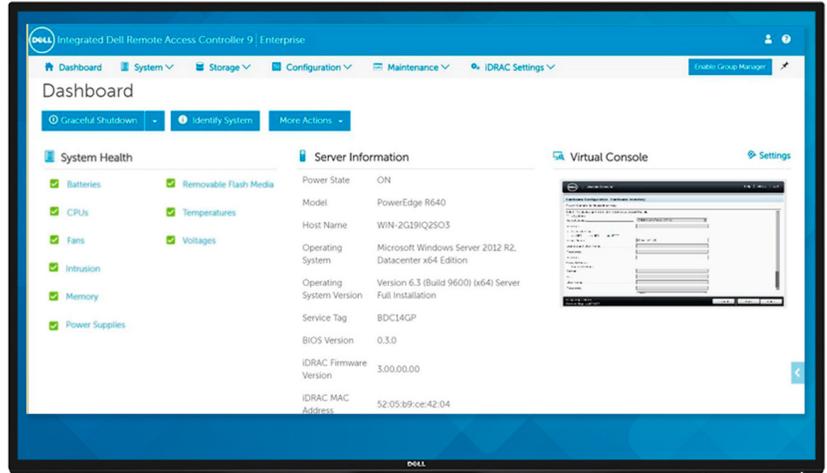


包括的なエージェント不要の 管理を実現するiDRAC9

Dell iDRAC9によるセキュリティと
インテリジェントな自動化の実現



Dell EMC PowerEdgeポートフォリオによるモダナイズ

iDRAC9 (integrated Dell Remote Access Controller 9) は、ローカル/リモート サーバのエージェント不要の高度な管理を実現します。iDRAC9はすべてのPowerEdgeサーバに組み込まれており、各種の一般的な管理タスクを自動化するための安全な手段を提供します。iDRAC9はすべてのPowerEdgeサーバに組み込まれているため、ソフトウェアを追加でインストールする必要がなく、電源ケーブルとネットワークケーブルを接続するだけで利用できます。IT管理者は、オペレーティングシステムやハイパーバイザーをインストールする前でも、サーバ管理機能一式をすぐに使用することができます。最大12台のNVMeドライブを使用することで、ストレージのパフォーマンスを最大化でき、アプリケーションのパフォーマンスを容易に向上させることができます。

- システム構成
- ファームウェアの更新
- その他の日常的なタスクの自動化
- OSの導入
- 稼働状態のモニタリング
- 管理アクティビティ

拡張性の高いアーキテクチャ

iDRAC9はPowerEdgeポートフォリオ全体に組み込まれているため、同じIT管理手法およびツールを環境全体に適用することができます。この一貫性のある管理プラットフォームにより、組織のインフラストラクチャニーズの増大に合わせてPowerEdgeサーバを容易に拡張することができます。PowerEdgeサーバの管理手法は拡張性に優れており、お客様は最新のiDRAC RESTful APIを使用できるようになります。iDRAC9をこのAPIと組み合わせることで、Redfish標準規格に対応できるだけでなく、Dell EMCの拡張機能を使用して強化することにより、PowerEdgeサーバを規模に応じて最適に管理できるようになります。すべてのお客様はその規模に関係なく、OpenManageのシステム管理ツールポートフォリオを活用し、各自の環境に合わせてソリューションをカスタマイズすることにより、効果的なソリューションを低コストで実現できます。このポートフォリオには、各種のツール、コンソール、統合機能が含まれています。

各コンポーネントがiDRAC9を利用することで、容易な管理が実現されています。管理者の担当範囲を多数のサーバに広げることで、スタッフの生産性を高めつつ、コストを削減することができます。

インテリジェントな自動化

Dellのエージェント不要の管理により、IT管理者は管理体制を強化できます。PowerEdgeサーバの電源を投入し、ネットワークに接続するだけで、どこからでもそのシステムを監視し、完全に管理することができます。それどころか、IT管理者はソフトウェア エージェントを使用することなく、以下を行うことができます。

- 監視
- 管理
- 更新
- Dell EMCサーバのトラブルシューティングおよび修正

iDRAC9には、ゼロ タッチの導入およびプロビジョニング、iDRACグループ マネージャ、システム ロックダウンなど、サーバの管理を迅速かつ容易に行えるようにするための専用の機能が搭載されています。Dell EMCは、既存の管理プラットフォームでインバンド管理を利用しているお客様に対して、iDRACサービス モジュールを提供しています。この軽量のサービスでは、iDRAC9とホスト オペレーティング システムの両方とやり取りを行い、従来の管理プラットフォームをサポートすることができます。

ローカルおよびリモートの安全な管理

最新のHTML5ベースのWebインターフェイス、コマンド ライン インターフェイス、またはiDRAC RESTful APIなどの一連の堅牢なAPIを介してiDRAC9を使用することにより、HTTPS、SSL、スマート カード認証、LDAP、Active Directoryを統合し、セキュリティを確保することができます。iDRAC9のWebインターフェイス、リモートRACADMユーティリティ、WS-MANインターフェイスはすべてTLS 1.2をサポートしています。iDRAC9によって提供されるすべてのWebページは、特に使用しないように設定しない限り、256ビット強度のTLS暗号化で提供されます。また、Dellは、仮想KVM (仮想コンソール リダイレクション) の暗号化とTLSによる仮想メディアをサポートしています。iDRAC9の仮想コンソールとメディアでも、SSL暗号化の利点が活かされます。また、iDRAC9ファームウェアにはデフォルトのセキュリティ証明書が用意されていますが、これはお客様が選択したセキュリティ証明書に置き換えることができます。リモート サーバへ安全にアクセスできるようにすることで、データの整合性とセキュリティを維持したまま、重要な管理機能を実行できます。

PowerEdgeの管理機能の中核

iDRAC9は、PowerEdgeサーバファミリーに共通の組み込み管理機能と、組織の成長を促進する自動化機能を提供します。また、iDRAC9のセキュリティ機能により、安心を得ることができます。これこそが、iDRACがDell EMCサーバの管理の中核である理由です。お客様は、OpenManageポートフォリオに含まれている各種のツールとテクノロジーを利用することで、各自のニーズに合致する管理ソリューションを構築できます。また、iDRAC9を活用することで、最適なサーバ管理を実現できます。

iDRAC9の主な機能と仕様	
BIOSリカバリ	起動の試行時に信頼できない無効なBIOSイメージを検出し、信頼できる認証済みのBIOSイメージにリカバリします。
接続ビュー	GUIまたはコマンドライン インターフェイスを使用して、サーバのLOM/NDCおよびiDRACが正しいスイッチに接続されているかどうかをすばやくチェックできます。技術者が遠方に向いてケーブルの問題を修正するにはコストがかかりますが、この機能を利用することで、そうした作業が発生しないようにすることができます。
すべての電源の入れ直し	iSM (iDRACサービス モジュール) を利用して、ローカルまたはリモートから制御してDC電源 (補助電源を含む) を一時的に取り除くことで、サーバのすべての電源ノードをリセットすることができます。これにより、トラブルシューティングにかかる時間を短縮することができます。
iDRAC Direct	フロント パネルのUSB接続を使用して安全にiDRACのWebインターフェイスにアクセスできるので、クラッシュ カートを使用したり、データ センターのホット アイルまで足を運んだりする必要はありません。同じポートにUSBキーを差し込み、新しいシステム プロファイルをアップロードすると、安全かつ迅速にシステムを構成できます。
iDRACグループ マネージャ	ローカルのiDRAC9の1対多の組み込み型監視機能とインベントリ機能を提供します。ソフトウェアをインストールする必要はありません。監視コンソールを個別にインストールしたり、管理したりすることを望まないお客様にとって最適な機能です。この機能を使用するためには、iDRAC Enterpriseのライセンスが必要です。
iDRAC RESTful API	iDRACをこのAPIと組み合わせることで、Redfish標準規格に対応できるうえ、Dellの拡張機能を使用して強化することができます。
マルチ ベクトル冷却	各PCIeスロットに対するエアフローを微調整して、適切な冷却を実現することができます。これにより、電力効率性を高め、各サーバ内においてアクセサリ カードをより正確に冷却することができます。
OpenManage MobileとQuick Sync 2	携帯デバイスでOpenManage Mobile 2.0 (またはそれ以降) アプリを使用すると、重要な稼働状態データを安全に取得することができます。また、ベア メタル サーバの構成タスクをBLE/Wi-Fi接続経由で簡単に実行することができます。このアプリは各種のiOSおよびAndroidデバイスで使用できます。
システム消去	管理者は適切な認証を使用して、ローカル ストレージ (HDD、SSD、NVM) および組み込み型のフラッシュ デバイスからデータを安全に消去することができます。
システム ロックダウン	Dellのツールを使用する際に、サーバの構成やファームウェアが変更されないようにすることができます。この機能を使用するためには、iDRAC Enterpriseのライセンスが必要です。
ゼロ タッチの導入およびプロビジョニング	出荷時設定でDHCPが有効になるように注文した場合、PowerEdgeサーバの電源を最初にオンにして、ネットワークに接続したときに、自動的に構成が行われます。このプロセスでは、お客様の仕様に基づいてサーバを確実に構成するために、プロファイル ベースの構成が使用されます。この機能を使用するためには、iDRAC Enterpriseのライセンスが必要です。